

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600127	事業の開始年月日	平成 24年2月1 日	
		指定年月日	平成24年1月31日	
法人名	株式会社 シリセス			
事業所名	グループホーム星川園			
所在地	(〒240-0064) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区峰岡町1-13-1 サンワールドビル3F			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年2月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、様々な興味に応えられる様な外出先を決定している。 ・楽しみと健康管理の為、近隣への散歩や商店街への買い物を欠かさず行っている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年2月25日	評価機関 評価決定日	平成25年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇多彩な地域交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に近隣への散歩や商店街へ買い物に行くほか、自治会に加入しており地域の行事に参加して住民と交流している。餅つき大会では、事前に打ちあわせて利用者が餅を食べやすいようにちぎってもらったり、浴衣で盆踊りフェスタに参加している。 ・中学生の職業体験を受け入れており、生徒が事業所で利用者とおしゃべりをしたり、ラーメン博物館に出かけて一緒に食事をするなど交流している。 <p>◇利用者の思いの受け止め</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、利用者の意見や要望を聞く他、職員や管理者が各居室をまわって、困りごとの有無を個別に聞いている。また、生活歴や回想法を通して利用者の馴染みの人や場所を把握して、以前の勤め先と交流したり、知人の訪問を受け入れたりしている。 <p>【事業所の工夫点】</p> <p>◇排泄の自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者の方針でトイレでの排泄支援を徹底している。排泄チェック表を付け、排泄パターンを把握して、利用者のペースに応じた声かけでトイレに誘導しており、入居時にオムツやリハビリパンツだった方も現在は全員布パンツで過ごしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム星川園
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から地域の方々との交流を図り、認知症に対する理解を深めて頂き、施設の円滑な運営に協力を得られるようスタッフ共々努力している。	・開設時法人代表と管理者が、「利用者のその人らしさの支援と地域で孤立しない事業所を目指す」との理念を作成し、全員に周知している。 ・毎月のスタッフ会議で、「質の高いサービス提供」について話し合い、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入会し、ゴミ当番・夏祭り・防災訓練・餅つき大会等の地域活動に積極的に参加し、近くの小学校の運動会を観戦している。	・自治会に加入しており、夏祭りや餅つき大会、盆踊りフェスタなどの行事に参加したり地域の民生委員の見学を受け入れるなど、地域住民と積極的に交流している。 ・中学生の職業体験や、フラダンス、ギターなどのボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生等の職業体験やボランティアの方々に施設に来て頂いている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見については、スタッフ会議の議題として取り入れ、改善し向上を図っている。地域で活動している方々に意見を頂き活きた意見を取り入れ、サービス向上に努力している。	・家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、区の高齢障害支援課職員の参加を得て、3か月ごとに開催している。 ・利用者の状況や事業所の現状を報告し、また、地域の防災情報を得てスタッフ会議で災害時協力体制について検討している。	・今年度開設して、運営推進会議が軌道に乗ってきたところですので、次年度から2か月に1回の開催を目指すことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設や入居者の状態を常に担当者に報告をし、施設に来て頂いたり役所に出向いている。	・区の高齢障害支援課や保護課とは、事業所から出向いたり来訪を得て常に連絡を取り合う関係ができており、事業所の現状を報告したり、成年後見人制度利用の相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。 身体拘束のないケアを実践している。	・全職員が虐待防止チェックリストで、拘束や虐待をしていないかを確認している。今年度3回行った。 ・言葉による虐待についても、常に意識して、気づいたことはスタッフ間で注意し合っている。 ・玄関は夜間以外施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないとの信念に基づき、スタッフ会議の場での話し合い、小さな出来事でも皆で注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われる入居者に対して、御本人と共に行政に相談し活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族への説明などには理解納得のいくまで行い、その後契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を伺い、外部機関への連絡先を伝え入居者がそれらを使用できる様にし、いつでも管理者、スタッフに意見の言える環境を整えている。又、家族の面会時に要請等をお聞きし、運営に反映させている。	・利用者の意見や要望は、日常生活の中で聞き、各居室をまわって困りごとの有無を個別に聞いている。 ・利用者・家族とは話しやすい関係を築いており、意見や要望は申し送り全員に伝え、会議で検討して対応している。 ・横浜市福祉調整委員会のポスターを貼り出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案をまとめ、スタッフ会議で報告・話し合い検討し、反映させている。スタッフが意見を述べやすい様な環境を整えている。	・管理者は現場の意見や提案を大切に、職員から直接聞くほか、介護主任が、スタッフの意見や要望を管理者に伝えている。 ・申し送り時間帯の変更や業務シフトについての意見を取り入れて、改善した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員、個々の生活環境にも気を配り、働きやすい様考慮している。職員が向上心を持って働ける職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設側からの研修依頼も多く取り入れ、スタッフ希望の研修においても費用の一部を負担し、推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換実習の取組みを行い、他施設での良い所を持ち帰り、自施設での向上へと繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者一人ひとりの生育歴を大切にして要望等を聞き、本人の不安に耳を傾け希望を持って不安なく生活出来る様な関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談を通じ、本人・家族の状況把握を積極的に行い、要望等を十分にお聞きし、本人・家族共に安心して頂ける関係作りを努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・ご家族と面接し、その方々にとってグループホーム入所が最善であるか見極めさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の話を良く傾聴し、本人の要望・出来る事の協力など、一緒に行っている。掃除、洗濯物畳み、料理、片付け、食器洗い等、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは入居者家族の絆を大切にし、お正月等自宅で過ごされたり旅行に行かれる等、本人を家族と共に支えている。月一度のお便りで施設での過ごし方等をお伝えし面会にも多く来て頂ける様連携を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の馴染みの人や、以前の勤務先の方に来て頂いたり、出かけたりし、一緒に食事を取ったりしている。手紙、年賀状を書く等、関係が途切れない様支援に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に生活歴を聞き、利用者と一緒に以前の勤務先を尋ねたり、手紙や年賀状の返事を代筆するなどの支援をしている。 ・年賀状が届いたことにより、古いなじみの方と数年ぶりに対面した利用者もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格を把握し、入居者同士が助け合い、努力し合える様サポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が入院等しても毎日のお見舞いや面会を欠かさず行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で本人の希望や意向を聞き、スタッフ会議等で話し合い本人の希望に合ったケアが出来る様にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活記録を活用して、日常の些細な言葉からも暮らし方の希望や意向の把握に努めている。 ・言葉での表現が困難な方へは、タイミングを見計らって個別に聞いたり、表情やしぐさから読み取っている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法を取り入れ、本人の生活歴や昔の思い出等の把握に努めている。家族や本人、関わりの合った方々から生活歴や昔の思い出等の把握に努め、本人の生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理のない生活、毎日を元気に楽しく過ごして頂ける様に心身共に良い状態を保てる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の声なきサインに耳を傾け、認知症である入居者の内面のストレスをチームでケアにあたる側として、サインを汲み取り適切に対応した介護計画を作成している。	・状況に応じて担当者会議に利用者の参加を得、面会や電話で家族の意見も聴取し、スタッフ会議で検討して介護計画を作成している。 ・介護計画は通常は3か月ごとに見直しているが、状況が変化した場合、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日申し送りノートを全員で把握し、個人記録も日々面密に記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日等、本人の希望を傾聴し、希望通りの又は添う様なお祝いをする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ダンスや歌・手品・ギター等、ボランティアお方に訪問して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問医療 月4回の訪問看護を受けている。 かかりつけ医のいる安心感、日曜・祭日・夜間の医療入院の手続き等、早い対応で良い関係が築かれている。	・以前のかかりつけ医での受診を支援しており、受診内容や薬の情報を家族から得ている。希望によっては職員が病院に同行している。 ・月2回、協力医の訪問があり、利用者に異変があった場合は、夜間でも相談にのってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との密なるケア。入居者一人ひとりの心身状況を把握し、ちょっとした変化等に対しても看護師に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院、医院長との緊急時の連携、相談員との密なる連携		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、本人や家族と話し合い方針を共有している。	・入居時に看取りの方針を文書で伝え、事業所の方針を説明している。 ・開設間もないため、看取りの実績はないが、他グループホームのターミナルケアについての事例を検討し、支援方法について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の立会いをして頂き、救急救命の訓練を定期的に行っている。フロア内に緊急時のマニュアルを掲示し全職員がいつでも対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指導の下、地域の方、全職員参加の訓練を年2回行っている。	・地域の方と消防署の協力で夜間の想定を含めて、年2回避難訓練を実施している。 ・スプリンクラーと出入り口には防火扉を接地している。 ・非常食・水・防災マント・ヘルメットを備蓄している。	・地域防災協定を結んだ事業所からの情報を得て、当事業所でも地域との協定の検討が進んでいますので、早期の実現が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドやプライバシーを損ねない様に、日々の生活の中で細心の注意をし、気持ちよく生活頂ける様に心配りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は全員入職時に守秘義務の誓約書を提出している。 ・利用者には、日々人格を尊重して接し、待つことも介護との考えに立ち自立支援に取り組んでいる。 ・不適切と思われる言動には、職員同士で互いに注意し合っている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者が自分で決めたり、希望を表現したりする事を大切に、それを促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物が好きな方には編み物をして頂き、手芸の好きな方にはそれをして頂き、その人らしい生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を希望の方にはお連れして利用して頂いている。衣類、化粧品等も本人の希望に沿っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つなので、入居者の好みを聞き、栄養面・季節感を取り入れている。食事作り、片付けも入居者の方と一緒にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は利用者の好みを入れて職員が作り、利用者は買物、洗い物、配膳をできる範囲で手伝っている。 ・職員は、利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。 ・ひな祭りや節分には、ちらしずしや恵方巻等の行事食を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態に合った食事を作り、栄養面にも十分配慮し、摂取量・水分量もわかる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯みがきを誘導し行う。義歯は夕食後洗浄剤にてケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った声かけ、見守り、介助をしトイレでの排泄・排便を促している。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄表をつけ、排泄パターンを把握して、利用者に合った声かけでトイレに誘導している。 ・管理者の方針で、トイレでの排泄支援を徹底している。 ・入居時にオムツやリハビリパンツだった方も現在は全員布パンツを使用している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、多くの野菜を取入れ、五穀米や玄米等を食べて頂き便秘予防に努めている。薬をなるべく使わず運動の働きかけを行い、その都度個々に応じた取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は決まっているが、入居者の方の体調や要望に応じた対応をしている。他便失禁時。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は、同性介助を基本として週2～3回、午前中に入ることが多いが、利用者の要望に応じている。 夏場はシャワー入浴も行っている。 ・季節には菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣は大事にしているため休息は自由に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋がありスタッフは薬について把握し、薬局から届いた薬は、看護師・管理者・ケアマネが薬箱にセットする。服用の記録と処方に変化のある場合には送りノートに書き報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみ（植物を育てる、金魚の世話、編物、散歩、買い物等）を尊重し、自分らしく生活出来る様サポートしている。入居者の能力を發揮して頂き、その行動に賛美と感謝をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞き、買い物やドライブ、外食等都合のつく限り支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は近隣の公園への散歩や商店街、スーパーに買い物に出かけている。 ・県民ホールにコンサートを聴きに行ったり、職業体験の中学生とラーメン博物館に出かけたり、また、家族も一緒にお寿司食べ放題ツアーにも出かけている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、お金を所持したり、使える様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの手紙には返事を書いて頂いている。家族や知人に事前に承諾を取り、自由に電話連絡出来る様になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時に応じた音楽を流し、季節の花を飾り、光が強い窓にはカーテンをつけている。外出した時等の写真を貼る等し、居心地良い環境作りをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日に3回は室内空気の入れ替えを行い、クーラーには手製の風除けをつけて、快適に過ごせるように工夫している。 ・居間には季節の花を生け、壁には行事の写真、利用者手作りの作品を飾り、居心地良く過ごせるように努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファにて仲良い方同士が会話をしたり、好きな音楽を聴いたりしている。一人になりたい時には部屋に戻り、TVや新聞を見たり休んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前住んでいた所のように使い慣れた物を置き、ご本人の意向に添った物を取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には好みのカーテン、ベッド、タンス、仏壇等を持ち込み、本人が落ち着いて過ごせるように支援している。 ・衣替えのときは職員と一緒に整理し、必要のないものは4階に一時保管するようにしている。 	・浴室の脱衣場所が居室前にありますので、プライバシーの観点からカーテンを工夫するなどの配慮が望まれます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等には手すりを付け、浴室には滑らないシートを張り、危険のない自立した生活が送れる様心掛けています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム星川園

作成日 平成25年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	25	災害対策として、地域との協定を結んでいない	地域との防災協定が結べる様な関係作り	地域防災協定を結んだ事業所からの情報を得て、協定を結べる様にする	6ヶ月
2	54	浴室の脱衣所が居室前にある為、プライバシーに問題あり	プライバシーを保てる様な工夫	カーテンをするなどの配慮をする	6ヶ月
3	4	運営推進会議が3ヶ月に1度の開催であった	2ヶ月に1度の開催に努める	25年3月実施の運営推進会議時に出席の方々への説明をし次回5月開催をする	2ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。